



## 見邨 和英 (みむら かずひで)

地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

地質情報研究部門地球変動史研究グループに配属になりました、見邨和英です。2021年3月に東京大学大学院工学系研究科にて博士を取得し、3年間千葉工業大学にて主任研究員として勤務しておりました。

私は学部時代から、新しい海底鉱物資源として注目されている、レアアースに富む深海堆積物「レアアース泥」の成因の研究を行っておりました。特にレアアース泥の堆積年代決定を目的に、魚類の歯や鱗の微化石「イクチオリス」の生層序について重点的に研究を行ってきました。博士取得後は、より多数のサンプルからより多くの微化石を観察するため、機械学習を用いた効率的な化石観察技術の開発を行いました。また、ここで学んだ機械学習技術を活用して、海水中の音波反射強度のマッピング画像から海底熱水活動を自動で検知する手法の検討も行いました。

今後は、より幅広い分野に機械学習技術を適用して、地質調査総合センターで行われている研究

業務の効率化に貢献したいと考えています。中長期的には、機械学習によって取得できる膨大なデータを解析することで新しい知見を見出したいと考えています。これからどうぞよろしくお願いたします。



## 鈴木 敬介 (すずき けいすけ)

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

地質情報研究部門層序構造地質研究グループに配属されました、鈴木敬介と申します。2022年3月に新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻にて博士の学位を取得しました。その後、同大学では、博士研究員、非常勤講師、特任助教を経験しました。産総研には2023年4月から日本学術振興会特別研究員PDとして入所しておりましたが、今年度からは晴れて常勤となりました。

私の専門は、古生代を対象とした地質学です。数億年前という遙か昔に形成された地層は長年の時を経て固結・風化し、今となっては見てくれの悪い岩石として陸域に露出します。専門家以外の方にとっては、そのような地層の何を見れば良いのか皆目見当が付かないことでしょう。私が研究を始めた当初は正にその状態でした。一人で意気揚々と野外調査に出掛けただけ、地層の姿勢さえ把握出来ず、途方に暮れたことを覚えています。しかし、見てくれが悪くても地層は地層です。それらを岩石試料として室内に持ち帰り、岩石切断・研磨を進めていけば、そのうち綺麗な成層構造に出会えます。私はこの地道な作業を学士から現在にかけて一貫して続け、これまで古生代の地層を見る目を養ってきました。

この力を活かせる場に研究職として就職出来たことを非常に嬉しく思います。今後は日本各地で地質図幅の作成に取り組みながら、所内の幅広い

方々と関わり、自身の研究に新たな展開を拓きたいと考えています。まだ至らない点ばかりですが、皆様どうぞよろしくお願いたします。





## 池田 あやめ (いけだ あやめ)

### 地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

地質情報研究部門リモートセンシング研究グループの池田あやめと申します。2024年3月に名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻にて学位を取得し、4月から産総研に入所いたしました。

私はこれまで、月のリモートセンシングで得られた複数のデータを組み合わせて月のクレータ地形が変動する素因の解明に取り組んできました。月には約40億年前に形成されたとされる非常に古いクレータが存在していますが、このような古い地形にも比較的最近に形成されたとみられる落石やレゴリスの流動地形、岩塊が密集して分布する領域が発見され、月表面は現在も活発に変動していると考えられます。大学院時代に提案したモデルでは、天体衝突だけでなく太陽加熱による岩盤破碎もクレータ斜面の岩塊供給に大きな影響を与えている可能性を示しました。

産総研では、これまでの技術や知見を活かして、地球での斜面災害リスク評価や環境モニタリングにも貢献していく所存です。将来的には、地球と月をはじめとする太陽系天体を比較惑星学の観点から捉え、広い視点から人類の発展とそれに伴う社会課題解決に貢献できればいいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



## 飯塚 睦 (いづか むつみ)

### 地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

今年度より地質情報研究部門地球変動史研究グループに研究員として配属されました飯塚 睦と申します。北海道大学で学位取得後、同部門海洋地質研究グループの特別研究員を経て、現在に至ります。これまで、海底堆積物の地球化学や微生物学の分析から、過去の温暖な時代の南極域の気候変動を復元し、将来の温暖化した地球の気候変動予測に役立つような研究に取り組んできました。

このような研究背景には、高校時代に小笠原諸島で自然の美しさに触れ、環境問題に強い関心を持ったことがきっかけにありました。また同時期に、研究者の講演を聞く機会があり、未知の事象に立ち向かい、社会に貢献する研究者という職業に憧れを持つようになりました。

これからは、これまでの分析・調査技術を活かして、海底堆積物中のマイクロプラスチックの研究に取り組み、社会的な課題となっているマイクロプラスチックの環境への影響評価を目指していきます。このような研究を通して、産総研の技術を習得し、他分野の方との連携を深めながら、高校時代に憧れた研究者になれるよう、産総研職員として研究を行っていきたいです。これからも、ご指導とご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

